

私は中国へ数多く旅行して今では住み着いていますが、興味の対象はヒマラヤとチベット文化に限られています。

しかし例外が一つだけ有り、それが黄山の墨絵の世界でした。1988年から1997年まで何度も通い、重い6・7版のカメラや望遠レンズそれに三脚を担いで上り下りの多い黄山を撮影して廻りました。

その写真の一部は四姑娘山HPの「世界の感動的風景」で紹介していますが、今回は解説を加えてご紹介します。

五岳归来不看山。黄山归来不看岳。

これは明代の旅行家 徐弘祖が日記に書いた言葉で、黄山を見たら有名な五岳(泰山、華山、高山、恒山、衡山)さえも見るに値しなくなると言っています。

黄山は、真に仙境のような水墨画の世界を見せてくれる名山です。世界遺産にも指定されている黄山は、上海の

北西300km位、下流に近い長江の南に在る石灰岩の山塊で、河南に降る豊富な雨に侵食されて数多くの急峻な岩峰を形成しています。

岩峰群の高さは1500～1900mで、名前が付けられている岩峰だけで72峰あります。

谷から湧き上がった雲霧がこれらの岩峰を見え隠れして千変万化の景色を見せてくれます。黄山に生える松は

特に黄山松と呼ばれています。黄山松は石灰岩に出来た細い溝や小さい空洞に根を張っているのが非常に成長が遅く、加えて夏は40℃、冬は-20℃近くになる過酷な気象条件のために、箱庭で珍重されるような特異な形をしています。

この黄山松の煤から作られる墨は最高だと言われ、近くで作られている硯、紙、筆と共に安徽(省)の文房四宝として有名だそうです。

黄山へのアプローチは、1988年頃に較べると随分楽になっています。成田を朝出発する航空便を使えば、上海で車に乗り換えて、その日の夜遅く黄山の麓に着けます。また、上海から夜行列車を使って翌朝早く屯溪に着き、屯溪から車を2H走らせれば9時頃に黄山の麓に着けます。

黄山の北／東／西麓から頂上まで10分で行けるロープウェイも在ります。頂上の宿も随分良くなっています。多くの宿が有りますが、景色の良い所に近い北海賓館がおすすめです。

季節としては一般に春や秋が良い



写真1 雲の中で見え隠れする峰々。初めて黄山に行った時に見た墨絵の世界でした。

とされていますが、私は雪の降る冬が好きです。

緑の松や黒い岩峰と雪のコントラストに雲霧がたな引く姿は、黄山で見られる最高の景色の一つだからです。また朝夕の景色も格別です。季節毎に日の出や日の入り

の前景になる黄山の岩峰や遠くの山並みが変わるので、何時見ても飽きません。

写真を撮る方には、50～400mmをカバーするレンズと丈夫な三脚を持って行く事をお薦めします。



写真2 雲の中の観望台。シルエットで浮かび上がる黄山松とそれに見入る西欧人が印象的でした。



写真3 雲海に浮かぶ岩峰の林。黄山松が生える鋭い岩峰が雲に浮かぶ姿が幻想的でした。



写真4 北海の日の出。岩峰の向こうから静々と上がって来る赤い太陽が感動的でした。